

メディアリテラシー新聞とは？

2024年には横浜市内の学童保育や公立小学校で、「子どもがスマホを持つ前に」をテーマに小学校高学年を対象としたワークショップを行いました。2023年秋冬、保護者を対象に、子どもがスマホを持つことでどんな不安や悩み事があるのかのヒアリングを行い、親子で学びたい16のキーワードを選定しました。そこから、子どもに伝わりやすい具体的な事件と、解説、問題点と対処方法について伝えるスライドを作成。ワークショップ前後でキーワードについての理解度を比較したところ、ほぼ全ての児童が内容についての理解が深まったと回答しました。



キーワード

多国籍企業 国際化 海外展開 海外市場 海外投資
 グローバル企業 グローバル戦略 グローバル市場 グローバル投資

海外展開 海外市場 海外投資
 国際化 海外展開 海外市場
 エコノミックパワー ネットワーク効果 多国籍企業
 国際化 海外展開 海外市場
 グローバル企業 グローバル戦略 グローバル市場

メディアリテラシー教育を
学校や家庭で実践していた
だくには、手に取りやすい
形に編集する方がいいだろ
うと、最終的に森ノオトでは
「メディアリテラシー新聞」
を発行することにしました。

A4版でプリントして週に1枚でも家族で話し合うきっかけにしてほしい。2024年現在の、インターネット上で起こるさまざまなトラブルについてのキーワードを10ピックアップしました。

- コタツ記事
- フィルターバブル
- インブレ稼ぎ
- 著作権
- ネットいじめ
- フェイクニュース
- 肖像権
- 寿司テロ
- 生成AI
- 災害とデマ



ローカルメディアデザイン事業部とは



横浜市・神奈川県内各地での市民ライターの育成、ボランティア団体の広報支援、メディアリテラシー教育、紙媒体のデザイン・編集などを行う森ノオト内の事業部。2020年に情報発信者のための羅針盤としてのワークショップツール「ローカルメディアコンパス」を開発。以下のサイトで販売しています。各種ダウンロードも可能。



▶ <https://localmedia.morinooto.jp/>

認定NPO法人 **森ノオト** mori no oto

VISION

地域や自然と
調和した社会と
その担い手を育てる

MISSION

暮らしの足元から地域を
編集し一歩を踏み出す
きっかけをつくる

事業

- 1 寄付で運営するローカルメディアとライター育成事業
- 2 市民活動・市民社会を情報の力でエンパワメントする事業
- 3 地域に密着したまちづくり活動を通して市民自治を支援していく事業
- 4 捨てるとつくるを楽しむつなぎ循環型社会の創出に寄与する事業

メディア事業

ローカルメディアデザイン事業

コミュニティデザイン事業

ファクトリー事業



住所 〒227-0033 神奈川県横浜市青葉区鴨志田町818-3

TEL 045-532-6941 | メール info@morinooto.jp | webサイト <https://morinooto.jp>



子どもがスマホを持つ前に

親子で語ろう！

メディアリテラシー

「メディアリテラシー」とは、情報を主体的に読み解き、自分自身の軸を持って判断していくことです。誰もが気軽に情報発信できるようになった現代社会では、出どころのわからない情報があふれ、情報の扱い方によって被害者にも加害者にもなりうるリスクをはらんでいます。一方で、デジタル化社会の進歩は目ざましく、情報活用による学びの幅の広がりや、グローバルに学べる利点を最大限に活用できるようになっています。

情報をどのように活用するか、それは自分自身を大切にする、他者を敬うにも通じます。横浜で市民ライターを育成しながらローカルメディアを運営している認定NPO法人森ノオトが、2022-2023年度にドコモ市民活動助成によって、親子でメディアリテラシーを日常的に意識し、家族で対話をする機運を醸成するための取り組みを続けてきた、その成果をお伝えします。



子どもが自分のスマホを持つ前に、私たちが親としてできることはないだろうか？ そんな思いから、家族で身につけたい習慣を学べる動画を作成しました。動画では家族で取り組みます。

- ①「ひとつの情報を家族みんなで見ること」
- ②「横並びで受け取ること」

動画視聴後のアンケートからは、子どものスマホやタブレットの「使用方法に関する悩み」と「情報との接し方（メディアリテラシー）に関する悩み」が聞かれました。前者は、「時間が守れない」、「フィルターを突破してしまう」「ルールを親が決めるのではなく一緒に考えていきたいが、なかなかまとまらない」など。後者は「YouTubeをよく見たがりますが、関連する色々な動画がどんどん候補で上がってきてしまうので心配」、「近似内容の動画にしかふれないので、偶発的な好奇心の広がりを期待できないことが悩み」、「YouTubeで見たことを事実と思い込んでしまう」、などといった声が寄せられました。

- ▶ 「一人一端末時代では〇〇〇〇〇しないこと」
答えは見つかりましたか？



メディア
リテラシー
動画

2022年度・2023年度 ドコモ市民活動助成

わが家のメディアリテラシー「セルフチェックリスト」



セルフチェックリスト

家族で身につけたい習慣を学べる6分動画「家庭でトライ!メディアリテラシー」の視聴者で、アンケートにご回答いただいたご家庭への特典として作成した「セルフチェックリスト」。「ひとつの情報を家族みんなで見る」と「横並びで受け取る」ことを習慣化するための具体的なポイントをまとめ、家族の掲示板や冷蔵庫の横に貼って、いつでも眺めて実践してほしいという思いで作成しました。

横浜市の小学校5年生は、国語の授業でジャーナリストの下村健一さんのエッセイ「想像力のスイッチを入れよう」を学びます。学校教育での学びを家庭教育に接続したいという思いで、横浜市教育委員会の後援を受け、横浜市の全小学校(335校)の小学校5年生に向け、動画周知のチラシ(2023年1月)、下村健一さん講演会のチラシ(2024年7月)をそれぞれ36,000枚ずつ発送しました。



森ノオトが作成したチラシ



チラシ発送の様子

チェックリスト
ダウンロードフォーム



「まわしよみ新聞」ワークショップ



気になった記事を切り貼りし、模造紙にコメントを書き込む



他のチームの気になった記事を知る



他の新聞にはどんなことが書いてある?

ネットは深掘りするメディアで、新聞は横滑りするメディア、いろんなことを鳥瞰していくためのものだと思います。双方を使って補完し合うことで、情報を駆使する人になれるんじゃないかな



増築者のむつさとしさん

むつさとしさん
インタビュー記事
はこちら



まわしよみ新聞とは、2012年にむつさとしさん(観光家/コモンズ・デザイナー/社会実験家)が考案した「メディア遊び」です。遊び方が公開されオープンソースになっており、まちづくりや教育などの分野でさまざまな人々によって活用されています。2017年には読売教育賞最優秀賞を受賞しています。興味がある記事だけを見ていくネットサーフィンと違い、紙の新聞は読む人が知らなかったり、関心のなかった分野のニュースも目に入ってくるのが特徴です。また、記事の配置の仕方などを見て、情報のプロである新聞記者たちの考えに気づくこともできます。何より読者である自分たちが、同じ紙面を見ても人によって注目する記事が違うということや情報の受け取り方が違うという、「違い」に気づくことがポイントです。他者との違いを感じることが、自分を理解することにもなります。

■まわしよみ新聞ワークショップの進め方

1. 4~5人が1グループになる。
2. まずは個人で新聞を読んで気になる記事をハサミで切る
3. どうしてその記事が気になったのかをみんなに伝える
4. みんなが気になった記事をスクラップしてみんなの「まわしよみ新聞」を作る



ニュースパーク(日本新聞博物館)と下村健一さん

下村健一さんは、テレビニュースのアナウンサーを経て政府広報を務めたのち、現在はメディアリテラシー・情報教育の専門家として活躍、小学5年生の国語の教科書(光村図書)の執筆者でもあります。ニュースパーク(日本新聞博物館)は、日本の日刊新聞発祥の地である横浜で、確かな情報を届けるための学びと啓発の場として、日本新聞協会が運営する情報と新聞の博物館。メディアリテラシー教育に最高の場で、最高の先生と一緒に、親子がともに「情報の海をわたる」ためのきっかけをつくらうと、森ノオトの活動を全面的に応援していただいています。

2024年7月21日に行った「下村健一さん講演会」では、ニュースパークの企画展「新型コロナと情報とわたしたちII——コロナがわたしたちに残したものの」のツアーからスタート。コロナについてどんな情報が出回り、どんな報道の課題が浮かび上がったのか、どんな対処が求められたのか。ニュースパークのスタッフさんと下村さんの解説で学びました。講演では「デマにだまされない四つのコツ」をわかりやすい例えで体得し、最後は森ノオトが作成した「メディアリテラシー新聞」を実際に使ってみるワークショップを行いました。



メディアは切り取られていることを知る



スタッフの打ち合わせの様子



下村さん講演告知チラシ

スマホの使用契約書



◀表面

スマホの使用契約書は、森ノオトのスタッフが自分の子どもにスマホを持たせる際に作成したものをアレンジしました。スマホはとても便利で、子どもの世界や可能性を広げてくれます。しかし、使い方を間違えると、人を傷つけたり、自分も傷ついたり、家族の不和を引き起こすことがあります。契約書をつくって約束を交わすという「儀式」を行い、契約更新として年に一度読み合わせをすることで、ふりかえりの機会にもなります。

裏面▶

裏面には、子ども自身が自分で使い方を決めるためのチェックリストを用意しています。親が決めた約束事を一方的に押し付けられるのではなく、自分自身で考えてやるべきことを決めるという主体性を大切にしています。

ダウンロードは
こちらから



親のリアルを聞く
座談会

2023年11月16日・22日・30日に計4回、「ここが気になる!子どものメディアリテラシー」をテーマに保護者座談会を行いました。17人の親の話から「スマホを持っている子だけでコミュニケーションをとるとよくない」「情報の受発信ではデジタル足跡がずっと残る」「スマホは親の所有物で、18歳までは貸与である」など、家庭なりのルールがあることがわかりました。また、親が気になることとしては「無料の裏側に(課金の)仕組みがある」「コミュニケーションの常識は人によって異なること」「非科学的なものは鵜呑みにしない」「テレビ通話の感覚でインスタライブを始めてしまう」などがありました。今後子どもにメディアリテラシーを伝えるのにどんなツールが必要かという質問には、「スマホを使い始める時に何らかの「儀式」が必要」「姿勢や健康も考えたい」「ネットのいいところも伝えたい」「ツールとして使えるものがほしい」といった声が聞かれました。